

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470500564		
法人名	社会福祉法人正心会		
事業所名	グループホーム やすらぎの家		
所在地	佐伯市蒲江大字蒲江浦3951番地		
自己評価作成日	令和5年1月23日	評価結果市町村受理日	令和5年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4470500564-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4470500564-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	令和5年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年度より海岸から離れた山側にある、やすらぎケアセンター内に移転し、津波による影響をすぐに受ける事がなくなりました。人間の基本的欲求である食べる事、排泄する事を中心に、タブレットを用いて看護職員を中心に情報を共有し、健康管理を行う事に力を入れています。3Kの心(感謝の心、謙虚の心、共感の心)を持って、五感を使ってよく観察を行い、報告・連絡・相談・確認を機能させ、早めの対応を心がけています。また、技術向上のため、個々で動画研修を行い日々の業務で実践しています。コロナ禍のため、外出やご家族との面会が制限される中、ガラス越しでの面会やLINEビデオ通話を利用し交流の機会を絶やさなよう努めてまいりました。昨年5月より、特定技能性や技能実習生が入社し、大きな力となっています。ご利用者の居住年数が長くなる中、身体介護の重度者も増え、ノーリフティングの介護にも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に囲まれた木の香りのする木造平屋建ての居住空間の中で、利用者が穏やかにゆったりと生活を営んでいます。コロナ禍により地域交流や外出支援が減っていますが、職員が工夫を凝らしレク活動や運動会等の季節行事を催しており、利用者の自信回復やできる力の発揮・日常生活の彩りとして活かされています。高齢化が進む中で、「重度化・終末期」の取り組みについて職員会議の中で研修時間を設け、全職員で学んでいます。ターミナルケアにおいても法人全体の多職種との連携により、終末期に最期までその人らしく暮らせるよう、QOLの視点を大切にした支援に取り組み、家族との情報交換を密にする中で利用者・家族の希望を実現できる支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に加え、「押し付けず受け止めて決定を促す」という目標をキッチンに掲示し、毎日朝の申し送り後に唱和し確認した上で業務に従事している。勉強会等でも理念に触れ、確認し合うようにしている。	提供サービスの骨組みとなる理念を開設以来変わらぬ指針としており、管理者の指導のもと職員周知が図られています。理念に加え、月間目標(3項目)を作成、利用者本位の支援が適切に実践されているか会議等で検証することで向上を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	外気浴や散歩の際に地域の方が通られた時は、必ず挨拶をするよう徹底している。コロナ禍のため、婦人会や区長会の方との交流も実施できていないが、状況が落ち着いたら再開したいと考えている。婦人会の方より今年度も利用者全員にタオルとみかんの差し入れを頂いた。	運営推進会議で自治会を通し、情報交換を行っています。コロナ禍により利用者との直接交流は自粛していますが、地域の行事、年1回の清掃活動に利用者の家族の協力もあり職員が参加し交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ地域の方へ向けての貢献は不十分である。ホームだよりを活用し地域の方々へもっと発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ流行期を除き、奇数月に開催。ホームだより等で活動状況や職員募集のお知らせを報告している。事故やヒヤリハット報告、身体拘束の適正化について出席者から意見を聴き、今後の対策に繋げている。	2ヶ月毎に運営推進会議(書面会議含む)を開催しています。書面会議では活動報告(写真)ヒヤリハット報告とその対策・実習生の紹介等の資料を各メンバーに届け、出された意見をサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告も数例あり、困難事例について包括支援センターの方に相談している。生活保護の方については福祉事務所の方との連携を図っている。	運営推進会議の議事録・資料の提出や日常的な電話相談・メールでの情報交換を通じて担当者との連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にあわせ、外部講師による身体拘束・虐待防止の研修により学び、意識の強化に努めている。	身体拘束廃止に関する研修を、法人内で外部講師(地域包括支援センター職員)を招き学んでいます。毎月職員会議の中でも研修のテーマを決め勉強しており、特にスピーチロックについてその理解に努め支援に当たっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にあわせ、外部講師による身体拘束・虐待防止の研修を実施し、虐待にあたる行為の確認も朝礼時に行っている。管理者はホーム内を抜き打ちで見回るようにしたり、職員のストレスチェックを行い虐待に繋がらないよう早めの対策を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用し、経済的に安心して暮らせている利用者を通して学ぶ機会を持つ事ができた。今年度も社会福祉協議会の通帳管理サービスを利用するケースがあった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書を基に重度化した時の対応や、看取りに関すること、医療連携体制の実際等について詳しく説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回、ミニ運動会と同時開催していたが、コロナ禍において実施できていない。活動報告書や電話連絡を通してご家族の意見を聴いている。	家族の面会は窓越しやオンライン等で行っていますが、感染状況を確認し、面会や行事参加・家族会等の開催を考えています。電話連絡や利用者の近況報告時に家族の意見・要望を把握しサービスに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議前の主任連絡会議にて伝達事項以外に意見交換する機会を設けている。個人面接の実施や業務改善提案書の提出等、職員からの意見を聴き取り、業務改善に反映している。	職員の意見や提案等を聴く機会は、毎月の職員会議やミーティング(申し送り)で設けています。年2回の個別面談や年1回のOJT(職場訓練)チェック表にて個々の振り返りや評価を行い、就業意欲や資質向上・達成感等に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施。その結果を賞与・給与に反映し、永年勤続やヒヤリハット報告賞の表彰により職員の定着率の向上を図っている。毎月の勤務もなるべく職員の希望に沿えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回、OJTチェック表により自己評価と他者評価を行い仕事の振り返りを行っている。また、今年度より、ネット動画による外部講師の研修を毎月テーマを変え実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護における同業者との交流会の機会はまだ作れていない。今後、研修会等に参加し意見交換を行いサービスの向上に繋げて行きたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があれば、必ず本人と面談し心身の状態や思いを把握し、顔なじみの関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があったら、必ず本人・家族に会い、家族の思いも聴くようにしている。どのように困っているのか状況の把握に努め早期に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人というより家族が自宅で介護する事ができなくなり入居を希望するケースが多く、何度かホームへ遊びに来て慣れて頂き、入居のタイミングを図るよう努めている。。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり敬い接するという考え方を全員で共有し、普段の生活の場面で色々な知恵ややり方を教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時は、近況を伝え一緒にお茶を飲んで過ごして頂いていたが、コロナ禍のためガラス越しの面会にとどまっている。。LINEビデオ通話や月に1回、活動報告書をご家族宛てに送付をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の病院では友人や知人に会うことが多く言葉を交わすことも多い。今はコロナ禍で面会制限があるため電話やLINEビデオ通話を活用し家族や馴染みの人との関係が途切れないように支援している。	コロナ禍により友人・知人の面会は困難になっていますが、病院での定期受診で知人に会い言葉を交わすことや、家族の協力でラインビデオ通話を活用し、馴染みの関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別にゆっくり話す時間を作ったり、皆で過ごす時間などは、利用者同士が良い関係が作れるよう職員が間に入り調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた方についても、必要に応じて相談や支援を行っていきたくと考えている。契約終了時には、何かあればいつでも連絡下さいとお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを日々の暮らしの中の会話などから把握するよう努めている。特に入浴時にゆっくり話を聴くよう心がけている。	利用者のこれまでの暮らしや思いを把握するように努め、希望や意向を聴きサービスに反映させています。意思疎通が困難な方は、家族からの情報や生活歴からその時々を思いを推察し、支援に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際事前に本人や家族から今までの生活歴等を聴き取り、基本情報として作成し、職員も必ず把握するよう努めている。馴染みの物や大切にしている物は居室内に置いて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日10時にバイタルチェックを行い、異常値の方については必ず再検を行い、入浴や体操の参加等、1日の過ごし方を決めている。レク活動やお手伝いを通して本人の出来る事の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の申し送り時やカンファレンスの中で職員間で意見交換し、伝達ノートの活用により、ケアの統一を図るようにしている。ケア会議、モニタリングを定期的に行い、家族の意見も反映するよう努めている。	利用者・家族の意向・職員の意見等を踏まえて計画を作成しています。意見を出し合い、観察力を高めながら職員みんなで検討し、現状に即したプランを作成し実践しています。	今年度は実習生が数名入社されており、介護計画の重要性や目的をしっかりと伝えながら理解を深める指導とともに、職員も再度確認されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを導入し利用者毎に健康状態や言動を記録し、申し送りの際、職員間で情報を共有している。タブレット入力の内容については記録すべき項目を利用者毎に記入例を挙げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援には、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区内でのお花見やドライブなど四季折々の風景を感じていただくよう計画・実行しているが近年はコロナ禍のため、車内からの景色を楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談し、希望するかかりつけ医としている。受診の介助や薬とりは主に職員が行っており、必要時は往診を依頼し来所して頂いている。	希望するかかりつけ医となっています。利用者の体調の変化によって、利用者・家族と相談し施設の協力医へ、変更された利用者もおられます。希望に沿って柔軟に対応される体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックや排便チェック等必要時、看護職員へ報告し、薬の確認や受診の必要性の判断などを相談し、早めの対応に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、入院情報提供票を作成し、病院へ提出している。入院中は週1回程度、電話で、医療連携室や看護師と情報交換を行い、早期退院に向け話し合い調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される段階で、管理者または介護支援専門員が、本人あるいは家族、ならびにかかりつけ医と方針を話し合うよう努めている。	定期的に終末期に向けた話し合いを、本人・家族と行っています。施設でターミナルケアを行われた際は職員全員で情報を共有し、研修に繋げ施設として出来る事を確認しながら、その人らしい終末期を迎えて頂けるよう日頃からよく話し、利用者の思いを大切に取組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応について、職員会議の中で研修時間を設け全職員で学んでいる。急変時に備え、緊急連絡手順をケース記録の最初に綴じ、救急車の要請がスムーズにできるように準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災・地震・水害等の発生場所を変え、夜間想定訓練を行っている。年1回は消防署立会の下訓練を実施し、地域の方の協力も得ながら訓練を重ね協力体制作りにも努めている。	定期的に訓練され、次の避難訓練に繋がっています。今後は事前避難に向けて、具体的に避難場所等の体制を整え、家族へ相談や協力を得られるよう準備されています。	行政からの要請もあり、事前避難に向けた計画を立てる中、施設独自で出来る事の確認と、行政に協力して頂く等の準備を、具体的に進めています。より良い協力体制が築かれることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前でのあからさまなトイレ誘導の声かけはしないように意識づけている。利用者の名前は基本的には苗字にさん付けでお呼びしている。人生の先輩としての敬意を忘れないよう心がけている。	定期的な研修結果を、職員全員で情報を共有されています。利用者の気持ちに寄り添い、さりげないケアを心掛けています。利用者の生活歴等を大切にされ様々な角度から情報を共有し、利用者の処遇に繋がっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が「はい・いいえ」と答えやすいよう声かけしながら、ご本人が選択したり決定できる場面を作るよう務めている。「○○してもよろしいでしょうか」の言葉を添えるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本的に決まっているが、その日その時の本人の状態に合わせてながら対応をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診前はお気に入りの服を選んで頂き、起床時には肌の保湿や整髪に努めている。ヘアークットはホームへ理容師に来所して頂いているが、コロナ禍のためご家族の承諾を得て職員がカットし整えている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付け(お盆拭き)などできる事はして頂いている。誕生日には手作りケーキを提供したり、おやつレクやお料理レクを実施している。	施設の厨房で手作りした食事を提供をされています。味は勿論のこと、日々の食材にこだわり、安全・安心を意識された食事を楽しんで頂いています。利用者の要望はありませんが、季節の物やイベント食・おやつ作り等、食事を楽しめるよう工夫されています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タブレットに食事・水分摂取量を記録しチェックしている。また、飲み込みの悪い方には主食をおかゆに、おかず類はトロミ剤を用いたり、ブレンダーにしたりと状態に応じて食事形態を変えている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施している。全介助、見守り、声かけのみ等利用者の能力に応じて支援している。業務日誌に実施のサインを記入する事でケアレスミスを防いでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が可能な方は排泄パターンを把握し声かけを行いトイレ誘導を行い、夜間のみポータブルトイレを使用して頂くよう努めている。排泄チェック表に記入し管理している。	職員全員で排泄チェック表の情報を共有し、利用者のパターンや細かな変化を把握しながら、利用者に合わせて支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	タブレットと排便管理表を用い間隔を確認し申し送り時必ず伝達している。便秘傾向の方には入浴時や温湿布により腹部マッサージを行ったり、天気の良い日はできるだけ散歩するよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分、健康状態など考慮し、希望にお応えできる範囲での入浴支援を行っている。入浴を拒む方には、職員が連携して声かけの工夫を行ったり時間をずらしてみするなど努めている。	入浴の時間を大切にされています。リラックスし気持ち良く入浴を楽しんで頂けるよう、個々に沿った支援に取り組まれています。利用者の気持ちに寄り添い工夫しながら支援に取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室に温湿度計を設置しエアコンの調節を行い、管理している。冬場は加湿器やウェットタオルで湿度を保ち、季節の変わり目には毛布やタオルケットを早めに準備し寝具の調節を行うよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者別に朝・昼・夕・眠前に内服する薬の一覧表を作成。薬が変更した際は伝達ノートに記入し周知徹底を図っている。処方内容書綴に全員の処方内容と効果・副作用が確認できるよう準備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	干し柿づくりや雑巾縫い等、得意な事は行って頂き、感謝の言葉を伝えている。洗濯物畳みやお盆拭き等、力を発揮できるよう声かけをし、おやつレクでは昔懐かしい物を一緒に作り召し上がって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍にてドライブ等は車内からの景色を楽しむ程度にとどまっている。玄関前に出て日光浴や歌、体操、散歩等を行い戸外に出れるよう努めている。	日常的に、外気浴や近くを散歩しながら、自然の景色を楽しんで頂いています。コロナ禍のため、様子を見ながら外出を楽しんで頂けるよう、ドライブなど取り組まれています。	現状の様子に合わせてながら、少しずつ外出支援を充実されるよう考えています。家族との交流も考えているので、より良い方向での実現を希望します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金の管理が出来る方には、お金を所持して頂き、病院の受診時などに支払いをして頂いている。またお金の所持が出来ない方への配慮も怠らないよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話して欲しい利用者には、電話をかけ取り次いでいる。名前程度が書ける方には、名前以外は代筆したり、絵手紙を書いたりして、便りをするよう援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をホールテーブルに飾るようにしている。湿温度計を設置し管理、調整を行い快適に過ごせるよう努めている。季節に応じ貼り絵や折り紙で鯉のぼりやクリスマス飾りを作ったり雛人形を飾り、利用者の誕生日会を開催しお祝いしている。	共用空間はとても明るく、季節を感じられる工夫をされています。感染対策や温湿管理等、安全・安心に利用者が居心地よく過ごして頂ける工夫をされ、その時々の変化に、迅速に対応できる体制が整えられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファや食席が居室以外で寛げる空間となっている。食席は気の合う方が側に座れるよう席替えを行っている。洗濯物畳みや読書、裁縫、折り紙など利用者の得意な事に日々取り組んで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に御位牌や写真を飾っている方もいる。クローゼットの収納スペースが広いため、持込の物が無い方も多。持ち込まれた物が、どこに収納されているかを記し、収納物がわかりやすいよう工夫している。	利用者が居心地よく過ごし、安全・安心に過ごして頂けるよう必要な時は、家族の協力を得ながら居室づくりに取り組まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりを設置し、歩行の不安定な利用者には付き添いや見守りを行っている。トイレの表示もわかりやすい位置に変え、居室には目印をつけるなど利用者の状態に応じ工夫している。		